山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和８年１月１日～令和８年11月８日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和７年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令　和　８　年	337	53	5	157	154	369
令　和　７　年	348	49	4	166	163	382
前 年 同 期 比	−11	4	1	−9	−9	−13

２　山域別発生状況

区　　分		件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	60	17.8%	9	0	31	26	66
	後立山	87	25.8%	17	2	32	52	103
	その他	38	11.3%	5	0	21	14	40
計		185	54.9%	31	2	84	92	209
中央アルプス		27	8.0%	1	0	13	15	29
南アルプス		9	2.7%	2	1	4	2	9
八ヶ岳連峰		34	10.1%	5	0	15	17	37
その他の山岳		82	24.3%	14	2	41	28	85
計		337		53	5	157	154	369

３　態様別発生状況

区　　分	件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	93	27.6%	25	0	72	0	97
転　　倒	76	22.6%	0	0	76	0	76
病　　気	27	8.0%	10	0	0	17	27
道 迷 い	31	9.2%	0	0	0	41	41
落　　石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪　　崩	3	0.9%	2	0	1	0	3
落　　雷	2	0.6%	0	0	2	0	2
疲労凍死傷	49	14.5%	3	0	0	55	58
不明・他	56	16.6%	13	5	6	41	65
計	337		53	5	157	154	369

４　男女別・年齢別比率

区　分	男性 死者	男性 不明	男性 負傷	男性 無事	男性 計	（人）比率	女性 死者	女性 不明	女性 負傷	女性 無事	女性 計	（人）比率	男女計 人数	男女計 比率
１９歳以下	1	0	1	6	8		0	0	1	4	5		13	
２０　代	2	0	6	18	26	49	0	0	2	5	7	27	33	76
３０　代	1	1	5	8	15	20.0%	1	0	5	9	15	21.8%	30	20.6%
４０　代	5	0	12	12	29	80	1	0	3	3	7	40	36	120
５０　代	6	0	26	19	51	32.7%	1	0	21	11	33	32.3%	84	32.5%
６０　代	15	2	20	24	61	116	3	0	21	9	33	57	94	173
７０以上	16	2	21	16	55	47.3%	1	0	13	10	24	46.0%	79	46.9%
計	46	5	91	103	245		7	0	66	51	124		369	
比　率	66.4%						33.6%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（11/2～11/8）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
11月3日	八ヶ岳連峰 ニュウ	男	80	無事救出	その他	2人パーティで稲子湯登山口から入山し、ニュウから白駒池方向へ下山中、低体温症により、行動不能
		女	68	無事救出	その他	
11月3日	下伊那郡天龍村 小遠見沢	男	86	死亡	不明	単独できのこ採りのため入山し、何らかの原因で、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では2件の山岳遭難が発生しました。

八ヶ岳連峰ニュウにおける山岳遭難では、1泊2日の行程で稲子湯登山口から入山した2名パーティが、白駒池方向へ下山中に日没を迎え、装備不足で行動不能に陥りました。

この日、八ヶ岳連峰周辺では冬型の気圧配置が強まり、稜線上では風速10m／sの強い西風が吹き、気温は氷点下となりました。ニュウ付近では、夜間ガスが取れて快晴となったことで、放射冷却現象により急激な気温低下がありましたが、遭難者らは防寒具のみで、十分なビバークセット（ツェルトやガス類等）を携行していませんでした。通信電波圏外で自力で救助要請できず、翌日、別の登山者が発見し通報、警察と消防の救助隊が救助しましたが、2名とも低体温症が進行していました。体力不足に起因する行動の遅延やビバーク装備等の不足が、命に関わる遭難へと発展する典型的な遭難事例ですが、起こりうる危険を想像し、万が一に備えた十分な装備を携行する事が重要です。

この時期に登山を計画されている方は、自身の体力、技量、装備を冷静に判断して計画を立てましょう。たとえ山頂に行き着かなくても、引き返しのタイムリミットを定めて行動し、遅くとも15時には下山するように、余裕を持った登山を心掛けましょう。